

エネルギーキャリア 自己点検結果

#	審査の視点（平均点） 外部専門家のコメント	対応状況	理由
1	<u>研究開発の内容の重要性、妥当性（1.3点）</u> ①…アンモニア関連に関しては、利用側でアンモニアをそのままの利用が良いのか、H2に変換した利用のほうが良いのかを整理。 ②…水素の大量利用を考えると国内の再生可能エネルギーだけで賄うことには無理があるため海外での水素製造について明示すべき。 ③…内容については、うまく整理されていると思う。	①既に対応済 ②対応済 ③対応無	①研究開発計画の概要の「アンモニア、有機ハイドライド、液体水素などのエネルギーキャリアの開発および実現可能性見極め」において記載済み ②1. 意義・目標等、6. 出口戦略に記載済み ③改善すべき点なし
2	<u>実用化・事業化への戦略性（1.3点）</u> ①…水素製造コスト削減のための大量利用を促す戦略（水素発電）が練られていると思う。 ②…2020年までに水素製造コストをガソリンと等価にするという目標は、水素社会の実現には必要。 ③…本課題が実用化・事業化に進むためには、低廉かつ安定な水素供給が必須。このため、本事業が成立する水素価格レンジをプロジェクト開始時に明示するとともに、開始後は競合燃料の価格動向を踏まえながら適切に見直していくことが必要。	①対応無 ②対応無 ③状況に応じて検討	①改善すべき点なし ②改善すべき点なし ③経産省のトータルシステムシナリオ検討やエネ庁「水素・燃料電池戦略協議会」で作成中のロードマップと連携を取りながらシナリオ検討を実施し、それをふまえた上で検討する。
3	<u>組織間連携（産産、産学、府省）の有効性（1.7点）</u> ①…社会実装のために、関係する規制も多く、こうした状況を打破すべく関連省庁との連携が図られているように思える。 ②…日本の水素関連技術はトップクラスであるが実用化につながらなかったのは、このような府省連携が弱いためだと感じており、今回の取組みは大いに評価する。 ③…化石燃料からの水素製造にはCCSの事業化が不可欠。今後は、安全評価を中心とする規制に関する技術分野で環境省との連携を考慮すべき。	①対応無 ②対応無 ③状況に応じて検討	①改善すべき点なし ②改善すべき点なし ③経産省のトータルシステムシナリオ検討やエネ庁「水素・燃料電池戦略協議会」で作成中のロードマップと連携を取りながらシナリオ検討を実施し、それをふまえた上で検討する
4	<u>その他特記事項</u> ②-1…EV（連続走行150km）は要素技術が簡単で他国でも真似はできるが、FCV（連続走行500km～600km）は要素技術が複雑で真似しにくい。国際競争力の観点からもFCV普及の後押しがポイント。 ②-2…H2やNH3の安全性に関する研究も重要。	②-1継続検討中 ②-2既に対応済み	②-1 FCVに関してはエネ庁とも連携しながら、普及を後押ししていきたい。 ②-2研究開発内容「エネルギーキャリアの安全性評価研究」で対応済み

※点数は以下を基準にしています。

0点：改善が必要なもの

1点：妥当であるもの

2点：優れているもの